

⑥ 歯・口腔の健康

愛知県の状況

- ★ 中学校で給食後の歯みがきを実施している施設の割合は、約2割です。
- ★ 年1回以上歯の検診を受けている者の割合は、30歳代で約4割、70歳代で約6割となっています。
- ★ フッ化物洗口を実施している施設の割合は、約25%です。

基本的な考え方

「歯・口腔の健康」は、食べる喜び、話す楽しみを保つ上で重要な役割を果たしており、健康で質の高い生活を営むために欠かすことのできない要素となっています。

生涯にわたり歯・口腔の健康を保つ上で、う蝕と歯周病の予防は基本となります。

う蝕の予防には、歯口清掃等の口腔ケアや歯質強化対策としての²²フッ化物応用等があり、歯周病の予防には、²³歯間部清掃用器具の使用や定期的な歯科検診及び歯石除去等が効果的です。第1次計画では、歯・口腔の健康度について大きく改善が見られましたが、地域によって、う蝕や歯周病の有病状況や定期検診等の口腔管理の実施状況などに差が見られることから、今後は地域格差を含めた「健康格差の縮小」の観点も加え、対策を進める必要があります。

また、誰もが適切な口腔管理や歯科保健サービスが受けられるよう、家庭、学校、職場、地域、医療機関等社会全体で支援する体制の整備を進めるとともに、地域特性やライフステージに応じた生涯にわたる切れ目のない対策を推進していくことが必要です。

健康・行動目標

ア 歯みがき習慣の確立

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
歯みがき習慣の確立	保護者による仕上げみがきがされていない幼児の割合の減少(1歳6か月児)	25.0%	10.0%以下	—
		平成22年度愛知県「乳幼児健康診査情報」	平成34年度	—

【目標値の考え方】
3歳児のう蝕有病状況と関連性がある1歳6か月児健康診査での問診項目の「保護者による仕上げみがきがされていない幼児」を指標とし、目標値は、平成13年度の37.8%から平成22年度の25%へと10年間で12.8ポイント減少していることから、15ポイント減の10%とする。

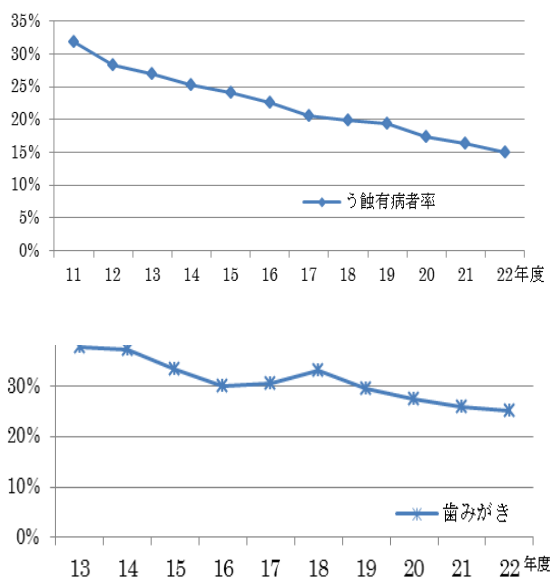
²² フッ化物：自然界に広く分布している元素で、他の元素と結合したフッ素化合物(フッ化物)の形で存在する。適量を作用させることで歯の質を強くし、ミュータンス菌が産生する酸に対する歯の抵抗力を上げることができる。

²³ 歯間部清掃用器具：デンタルフロスや歯間ブラシのこと。歯ブラシでは十分に除去できない歯と歯の間の歯垢を除去するのに効果的な清掃用具。

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
歯みがき習慣の確立	給食後の歯みがきを実施している施設の割合の増加(中学校)	22.5%	35.0%以上	—
		平成23年度愛知県「地域歯科保健業務状況報告」	平成34年度	—
【目標値の考え方】 歯肉炎は、正しい歯口清掃を継続して行うことにより予防できるため、施設全体で給食後の歯みがきを実施し、習慣化を図ることが必要である。愛知県地域歯科保健業務状況報告において、「給食後の歯みがきを実施している施設(中学校)」を指標とし、各施設の設備状況も考慮の上、現状値の1.5倍である35%を目標値とする。				

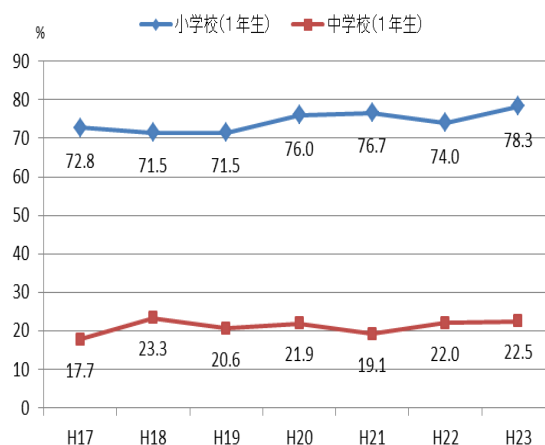
- 平成22年度愛知県「乳幼児健康診査情報」において、1歳6か月児で要観察と判定された者のうち、「歯みがきに問題(保護者による仕上げみがきがされていない)がある者」は、25.0%となっています。
- 乳幼児の歯・口腔の健康増進には良好な生活環境が必要ですが、食習慣や歯みがき習慣等は、保護者の生活習慣や育児態度、考え方とも密接に関わっているため、他職種との連携も図りながら保護者支援を行っていくことが必要です。(図1)
- 中学生の時期は、生活範囲の拡大や夜型の生活になりがちになるなど生活習慣に大きな変化がみられ、歯・口腔に関する健康行動が希薄化しやすい時期となります。子どもたちが生涯にわたって自らの健康管理が行えるよう、適切な歯科保健教育、指導を実施するとともに、歯みがき習慣の定着を図ることが必要です。
- 平成23年度愛知県地域歯科保健業務状況報告によると、「給食後の歯みがきを実施している施設」は小学校で78.3%、中学校で22.5%となっています。(図2)

図1 3歳児のう蝕有病者率と歯みがきに問題のある者の割合の推移



(資料:愛知県「乳幼児健康診査情報」)

図2 給食後の歯みがきを実施している施設の推移



(資料:愛知県「地域歯科保健業務状況報告」)

イ 歯科検診の受診

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
年1回以上歯の検診を受けている者の増加	年1回以上歯の検診を受けている者の割合の増加(30歳代)	38.3%	55.0%以上	—
		平成24年愛知県「生活習慣関連調査」	平成34年度	—
	年1回以上歯の検診を受けている者の割合の増加(70歳代)	57.0%	75.0%以上	—
		平成24年愛知県「生活習慣関連調査」	平成34年度	—

【目標値の考え方】
 平成24年愛知県生活習慣関連調査において、「年1回以上歯の検診を受けている」と回答した者を指標とし、30歳代は平成12年(11.8%)から平成21年(23.3%)までの10年間で11.5ポイント増加しており、さらに期待値も含めて目標値を55%とする。
 また、70歳代は平成12年(11.5%)から平成21年(27.0%)までの10年間で15.5ポイント増加しているため、期待値を含めて75%を目標値とする。

- 定期的な歯科検診や「歯の健康づくり得点」を用いて、自分自身の歯・口腔の健康状態や歯を失うリスクの高さを把握し、必要に応じてフッ化物塗布、歯石除去、歯面清掃、歯科保健指導を受け、継続的に口腔管理を行っていくことで歯・口腔を健康な状態に保つことができます。

<参考> 歯の健康づくり得点

8020達成のための自己診断！

- ・16点以上の方は大丈夫！
- ・16点未満の方は、将来歯を失うリスクが高い人です。

0点の項目を1つでも減らしましょう。

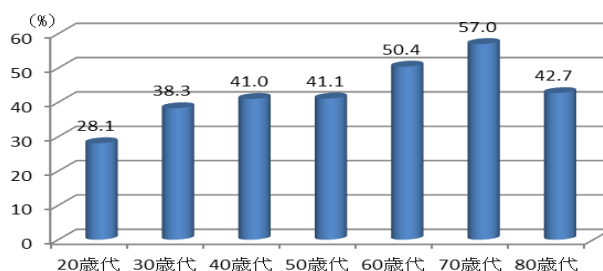
質問に対する答えの点数を合計してください。	はい	いいえ
歯ぐきが腫れることがありますか。	0	4
歯がしみることがありますか。	0	3
間食をよくしますか。	0	3
趣味がありますか。	3	0
かかりつけの歯医者さんはいますか。	2	0
歯の治療は早めに受けるようにしていますか。	1	0
歯ぐきから血が出ることがありますか。	0	1
歯磨きを1日2回以上していますか。	1	0
自分の歯ブラシがありますか。	1	0
たばこを吸いますか。	0	1

「歯の健康づくり得点」とは、愛知学院大学歯学部中垣晴男教授グループが開発した、8020達成(歯の喪失予防)のための生活習慣チェックツール。

- 平成24年愛知県生活習慣関連調査によると、「年1回以上歯の検診を受けている」と回答した者の割合は、70歳代が57.0%と最も高く、20歳代は28.1%となっています。定期的な歯科検診は、成人期の歯周病予防に有効であり、歯の喪失抑制にもつながることから、若い年代から継続して歯科検診を受けることの必要性について啓発していくことが重要です。

(図3)

図3 年1回以上歯の検診を受けている者の割合



(資料:平成 24 年愛知県「生活習慣関連調査」)

環境目標

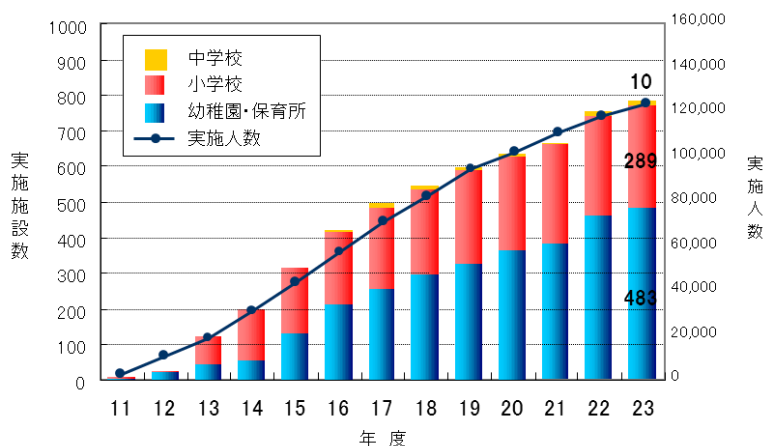
ウ フッ化物洗口の推進

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
フッ化物洗口を実施している施設の増加(幼稚園、保育所、小学校、中学校)	フッ化物洗口を実施している施設の割合の増加(幼稚園、保育所、小学校、中学校)	25.1%	40.0%以上	—
		平成 23 年度愛知県「う蝕対策支援事業実施報告」	平成 34 年度	—

【目標値の考え方】
 フッ化物洗口を集団の場で取組むことは、永久歯のう蝕予防に最も効果のある学齢期において、全ての子どもに平等にう蝕予防が図れることから、自治体のう蝕予防施策として意義が大きい。愛知県う蝕対策支援事業実施報告における「フッ化物洗口を実施している施設」を指標とし、目標値は、幼稚園・保育所での増加傾向に合わせて40%とする。

- ・ 愛知県ではう蝕予防として、幼稚園、保育所、小学校、中学校など、集団で行うフッ化物洗口を推進しています。平成 23 年度愛知県う蝕対策支援事業実施報告によると、782 施設でフッ化物洗口に取り組んでいます。
- ・ 集団の場でフッ化物洗口に取り組むことは、子どもを始め周囲の者のう蝕予防に対する意識を高め、みんなで健康づくりに取り組む環境づくりに繋がります。家庭、学校、地域等が連携を強化し、子どもが自ら健康行動を実践、継続していけるよう支えていくことが必要です。(図4)

図4 フッ化物洗口実施施設数と実施人数の推移



(資料:愛知県「う蝕対策支援事業実施報告」)

エ 歯科保健体制の充実

項目	指標	現状値	目標値	国の現状値(参考)
		データソース	目標年次	データソース
① 学齢期のう蝕対策の推進	一人平均う歯数が 1.0 本未満である市町村の増加(12歳児)	77.8% (42 市町村)	100% (54 市町村)	—
		平成 23 年度愛知県「地域歯科保健業務状況報告」	平成 34 年度	—
② 成人期の歯周病対策の推進	歯周炎を有する者の割合が 25%以下である市町村の増加(40 歳)	50% (27 市町村)	100% (54 市町村)	—
		平成 23 年度愛知県「歯周疾患検診実施状況報告」	平成 34 年度	—

【目標値の考え方】

① 12 歳児は永久歯がほぼ生えそろう時期であり、この時期に健全な歯を保持していることは、歯・口腔の健全な育成に重要である。愛知県地域歯科保健業務状況報告における「一人平均う歯数が 1.0 本未満である市町村」を指標とし、目標値は全市町村(100%)とする。

② 歯周病予防は、成人期以降の重要な健康課題の一つである。愛知県歯周疾患検診実施状況報告における「40 歳で歯周炎を有する者の割合が 25%以下の市町村」を指標とし、目標値は全市町村(100%)とする。

- ・ 愛知県の乳幼児期・学齢期におけるう蝕のない者の状況は全国トップレベルですが、県内の市町村間を比較すると、3歳児で 40.4 ポイント、12 歳児で 40.5 ポイントの差が生じています。
また、40 歳で歯周炎を有する者の割合も市町村間において、66.7 ポイントの差があります。
- ・ 歯科保健水準の向上を目的として、市町村等で実施されている歯科保健サービスの提供状況及び疾病状況のデータを収集・分析し、健康課題に沿った施策を展開していますが、今後は地域格差を含めた健康格差の縮小を目指し、市町村等との連携を強化することが必要です。
- ・ また、県民が生涯にわたり歯・口腔の健康を維持し、質の高い生活が送れるよう、歯・口腔に関する正しい知識の普及啓発に努めるとともに、定期的な歯科検診や歯に関する健康教育、歯科保健指導が受けられる環境の整備に一層努めていく必要があります。

本県の取組と役割

- ◎ 歯・口腔の健康に関する正しい知識の普及啓発、情報の提供に努めます。
- ◎ 保健所、市町村等との連携のもと、地域の歯科保健情報の収集・提供に努め、効果的な歯と口の健康づくりを推進します。
- ◎ 定期的な歯科検診や歯に関する健康教育、歯科保健指導が受けられる環境整備を支援します。
- ◎ う蝕予防のため、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口、フッ化物配合の歯磨剤など、フッ化物の利用を促進します。
- ◎ 「愛知県歯科口腔保健基本計画」に基づき推進します。